



12月園だより

2021年12月
尚徳福祉会
沼袋西保育園
園長

今年も残すところ1ヵ月となりました。この1年間を振り返ると、新型コロナウイルスに大きく影響を受けた1年となりました。保護者の皆様にも継続してご協力をいただき、誠にありがとうございました。保育の中で、大切にしていきたい子ども達との「愛着関係」の形成をコロナ対策の中で、職員もたくさん迷い、葛藤しながら過ごして参りました。感染者数が減り、ホッとしたいところではございますが、新たな変異株に戦々恐々としております。まだまだ感染対策の生活は続きますが、一日一日を大切に、しっかり対策をしながら園生活の充実に努めていきたいと思っております。

今後少しづつ寒さが増してきますが、子ども達にとって楽しい行事が続きます。子ども達が笑顔で、ご家族で幸せや希望を感じる年末年始となりますように元気に過ごしてください。今年1年も沢山のご協力、ありがとうございました。また来年もどうぞよろしくお願いいたします。



☆お知らせ・お願い☆

○ご家族でPCR検査を受けられる方がいる場合は園にお知らせくださいますようお願いいたします。

○12/18(土)に発表会を開催します。対象は2・3・4・5歳児さんクラスになります。クラス毎に入れ替え制、各ご家庭2名までの参加で行います。後日プログラムを配布します。

○事務所カウンターに扉が設置されることになりました。着工が年末、完成は年明けになりそうです。ご迷惑をおかけしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

○12/21(火)22(水)に中野工業高校、保育科の生徒さん10名が授業の一環として1歳~5歳クラスに2名づつ1時間程、体験に入ります。ご理解の程、よろしく申し上げます。

○園には様々なアレルギーをお持ちのお子さまがおります。園内に食べ物を持ち込まないよう、お願いいたします。又、たばこ、薬などの重大事故につながる恐れのある物の持ち込みにはご配慮いただきますようお願いいたします。

○12/29(水)~1/3(月)は年末年始のお休みになります。お間違えのないようお願いいたします。

☆12月の予定☆

- 1日(水) 避難訓練
- 2日(木) 幼児身体計測
- 3日(金) 乳児身体計測
- 8日(水) 発表会総練習
- 9日(木) 0歳児健診
- 18日(土) 発表会(2歳~5歳)
- 23日(木) 0歳児健診
- 24日(金) お楽しみ会
- 28日(火) もちつき会

※6日・20日の各月曜日、英語であそぼう(幼児)

☆1月の主な予定☆

- 5日(水) 避難訓練
幼児身体計測
- 6日(木) 乳児身体計測
- 13日(木) 0歳児健診
- 27日(木) 0歳児健診

※17日・24日・31日の各月曜日、英語であそぼう(幼児)

育児は夫婦で協力し合う



お父さんは育児に向いている

最近子育てに積極的にかかわるお父さんがふえ「イクメン」という言葉が定着していますが、日本人はもともと父親が育児をする民族でした。肩車、竹馬、一緒にひなたぼっこ…江戸~明治時代に日本を旅したヨーロッパ人たちは、日本の父親が子煩悩であることに非常に驚いたといわれています。

当時、農民の仕事は1日4~5時間程度。母親は妊娠・出産や膨大な家事で忙しく、授乳以外の育児はもっぱら父親の役割でした。産屋で共同出産も当たり前です。

しかし現代では、日本の父親の育児時間は欧米の3分の1程度と短く、育児休業の取得率も世界的に見て低いようです。明治時代に「男は仕事、女は家庭」という性別役割分業が始まり、男性の長時間労働は当然という風潮が続いています。「家族をたいせつにしたい」と思いながらも残業に追われるいまのお父さんは、かわいそうです。

でも父親が育児にかかわれば、母親は心身ともにとても助かります。お母さんの心が安定して、赤ちゃんにゆとりを持って接することができれば、じょ

うずにアタッチメント(赤ちゃんによる特定の大人に対する情愛的な結びつき)を形成できます。すると母子の関係が安定し、赤ちゃんの発育も順調にいき、知能や情緒の発達にもいい影響を及ぼします。

お父さんの育児休業は長くとらなくても、1週間でも2回に分けてもいいのです。少し勇気を出して、柔軟に活用してください。産後すぐとは限らず、育児が大変な時期にとって夫婦で支え合ってもよいでしょう。

これからの社会はグローバル化が進み、多様な人との共存が必要になってきますが、その最たるものが子ども。「マジでつき合う」ことで一番利益を得られるのはお父さんです。

「イクメン」なんて言われなくても、お父さんは育児に向いているのです。経済合理性などを考えない子どもの気持ちがよくわかるし、「たかいたかい」など体を使う遊びも、お父さんのほうが得意だと思えます。

妻子のためだけではなく、自分の生きがいのために育児を楽しんでください。

寝かし付け

添い寝でもひとり寝でも
どちらでもかまわない



「赤ちゃんを寝かしつけるとき、ひとりで寝かせるのと、添い寝をするのと、どちらがいいのですか?」とよく聞かれますが、それはどちらでもかまわないと思えます。育て方の方針の問題なので、どちらでなければいけないということはありません。

子どもは眠いときによく泣きます。これは眠りにつくときは無防備な状態になり、意識ももうろうとしてきて、それが子どもにとってあまりいい感じではないため、ぐずるのではないかといわれています。

欧米では「6ヵ月くらいになれば、ひとりで寝られる」というような判断があります。「今日からはひとりでね」と子どもの部屋に寝かせ、少しそばにいてやってから、「もうだいじょうぶね」とお母さんも部屋から出ていってしまいます。子どもは泣いたりしますが、親はそこでがんばって、子どもに人生の最初の試練を与えるわけです。

このような試練を与えて自立を促していくような育て方をするのに対し、「それはもっと先でいいんじゃないか」「いつもそばには親がいてくれるという安心感を持ってゆっくり自立させていけばいいんじゃないか」というのが日本の育て方です。

ゆっくりやればいいというのは、他人とかわかって生きる、サポートしてもらって生きる時間を長くすることで、

共感能力をていねいに育てているといういい方もできます。しかし、逆に「自分でやるしかない」という観念がなかなか育たず、依存的になるおそれもあります。

ヨーロッパではすぐそこが隣国という環境から、いかに自己主張するかとか、いかに自分を相手に理解させるかというコミュニケーションが大事なので、自分への自信をはぐくむことにこだわります。その最初の一步が、ひとりで寝かせるということなのかもしれません。

自分で考える子どもを育てる

いつまでもいっしょに寝ていると自主性が全く育たない、というわけではありません。住宅事情で長く泣かせておくのが無理だったり、寝るときくらいはそばにいてやりたいと思うのであれば、それでいいのです。ただ、これからのグローバル社会を考えると、いままでの日本のように「集団でみんな同じことをするのが大事」というより、「自分で考えて自分で責任をとっていきなさい」という子育てが大事になると思えます。

育てる姿勢としては、「どう思う?」「どうしたい?」と小さい子であっても聞いて、できるだけ「見守る育児」に変えていかなければならない時代が来ていると思えます。

0歳~3歳 能力を育てる好奇心を引き出す
主婦の友社 汐見 稔幸 氏